

第 1 9 2 0 回 埼 玉 県 教 育 委 員 会 定 例 会

- 1 日 時 令和 3 年 1 2 月 1 日 (水) 午前 1 0 時 開 会
午前 1 0 時 3 5 分 終 了
- 2 場 所 埼 玉 県 教 育 局 教 育 委 員 会 室
- 3 出 席 者 高 田 教 育 長、伊 倉 教 育 長 職 務 代 理 者、石 川 委 員、戸 所 委 員、坂 東 委 員、日 吉 県 立 学 校 部 長、石 井 市 町 村 支 援 部 長、中 沢 I C T 教 育 推 進 課 長
栗 原 書 記 長、岩 崎 書 記、原 口 書 記

4 会 議 の 主 宰 者 高 田 教 育 長

5 会 議

(1) 前 回 議 事 録 の 承 認

- 全出席委員異議なく本件記載どおり承認
- 高田教育長が、坂東委員を議事録の署名者に指名した。

(2) 報 告 事 項

「埼玉県学校教育情報化の方向性」(案)について

中沢 I C T 教 育 推 進 課 長 (提 出 理 由、策 定 の 趣 旨 等、学 校 教 育 の 情 報 化 を 取 り 巻 く 動 向、方 向 性 の 三 つ の 柱、方 策 に つ い て 説 明)

伊 倉 教 育 長 職 務 代 理 者 2 点 質 問 が あ り ま す。1 点 目 は、4 ペ ー ジ の 方 向 性 3 「学 校 に お け る I C T 環 境 整 備」は、す ぐ に で も 市 町 村 教 育 委 員 会 の 現 場 へ の 支 援 を し て ほ し い と 思 い ま す。先 日、地 元 の 中 学 校 の 学 校 運 営 協 議 会 に 参 加 し た と ころ、先 生 が 授 業 中 に 録 画 や プ ロ グ ラ ム を 使 用 す る と き に プ ロ バ イ タ ー や 機 種 が 違 う こ と で 3、4 台 の 機 材 と ス マ ー ト フ ォ ン を 使 用 し な け れ ば い け ない 状 況 で し た。そ の た め、授 業 を 行 う に 当 た り 非 常 に 手 間 で あ る と い う 話 を さ れ て い ま し た。現 場 の 学 校 の 先 生 が よ り 短 時 間 に、で き る だ け 労 力 が 少 な い よ う に 県 に は 環 境 整 備 の 支 援 を お 願 い し た い と 思 い ま す。2 点 目 で す が、4 ペ ー ジ の 方

向性1ですが、何のために情報活用能力の育成が必要なのか、それは資料にも記載されているとおり、全ての児童生徒が主体的に生きる力を育むことだと考えます。主体的に生きることはどういうことか、私自身の考えでは、その子自身が自分で物事を考えながら生きることだと思います。今までは、紙でめぐり情報を得ていたものが、これからはデジタル化によって多様な表現を目にすることができ、多くの情報を耳にすることができます。そういった様々な情報の内容が良いのか、悪いのか、きちんと自分で考えるためのツールであると、先生や我々大人たちが認識しながら、子供たちに提供していく必要があると思います。情報を単純に信用するだけではなく、それを見て自分はどう感じるのか、自分で判断し、考えを深めることができるような人間を育てなくてはいけないのではないかと感じます。まずは、先生や大人たちが主体的に生きるとはどういうことなのか、何のためにICT教育をしなくてはいけないのか、理解して取り組まないとスマート社会に生き抜き、豊かに生きる人材は育成できないのではないかと感じました。主体的に生きる力を育むということがどういうことなのかということをまずは現場の先生方も考え、啓発もしていただきたいと感じました。

中沢 ICT教育推進課長 1点目の環境整備の質問ですが、先生方が授業をするための端末環境を含め、整備がまだまだ足りていないと感じました。教える側の先生方の端末を含めた環境は非常に重要です。今般の国における経済対策の中にも環境整備は含まれており、国の補正予算も今回、案として計上されると聞いているので、こういった情報を市町村教育委員会に提供し、一刻も早く改善ができるよう働き掛けや支援をしていきたいと考えております。2点目の質問ですが、委員お話のとおり情報活用能力は、様々な情報の中からどれが正しい情報であるのか、又は解決しなければならない課題に対しどのような情報が必要なのか、選び取る力や活用する力が重要であると感じます。委員がお話した内容も含めしっかりと取り組んでいく必要があると考えています。今後も教員の指導、研修に当たって委員のおっしゃった内容を捉え、実施していきたいと思います。

石川委員 ICT教育は、コロナ感染症の影響で急速に進んだこともあり、現場の教員自身も手探りの状態ではないかと感じます。先日学校訪問し、授業を拝見したところ、全ての児童が一人1台端末を使用し、問題が出された後、大型提示装置に全員の答えが表示されました。そこで問題ができなかった児童が全ての児童に分かるような形になってしまい、授業終了後の意見交換の場で、答えが分からなかった児童が、ある意味見せしめにならなければいいなという話が出ました。ICT機器をどのように使うのが効果的なのか、児童生徒に対してどういった配慮をして使うのか、まだ確立されていないと感じました。そういった負の側面や問題になる場面は、現在は現場の先生方に任せられている状況だと思いますので、そのような面に関しても指導・活用方法の共有をしっかりと行ってほしいと思いました。また、意見交換の場で不登校の生徒が多いという話を聞きました。先生が家庭訪問すると、生徒は手にゲームのコントローラーを持ちながら家から出てくる。その話を聞いて、ゲーム・ネット依存がかなり深刻であると感じます。生徒本人の指導ももちろん大切ですが、家庭や保護者についても指導が必要ではないかと感じましたので、そのような面に関しても今後は配慮してほしいと思います。

中沢 ICT教育推進課長 1点目の大型提示装置の質問ですが、委員御指摘のとおり子供たちに配慮しながら活用していくことが大切であると考えます。私自身も学校を訪問し、授業を見学していると大型提示装置を使用することにより板書の時間が減り、またタブレットを使用し課題を配信することでプリントを配る時間が減りました。その減った時間により、今までよりも児童生徒一人一人の課題の取組状況を確認できることが見受けられ、作業が遅れがちな児童生徒を更にケアができるようになってくると思います。ICT機器を活用することによるメリット、デメリットをしっかりと捉えながら、先生方の指導力を上げていき、研修や情報を共有しながら、ボトムアップしていきたいと考えています。

2点目の不登校の関係ですが、学校、先生と家庭、生徒がつながっていくことが大切だと考えます。コロナ感染症の影響により直接コミュニケーションができない状況の中で、約7割の高等学校ではICTを活用しコミュニケーション

が行われていました。平時になったからこそ、デジタルとアナログのコミュニケーションをうまく活用しながら不登校の対策をしたいと思います。また、良い事例をできるだけ集め、各教員の方々と共有できるよう取組を進めていきたいと考えています。

戸所委員 5ページの方策で、それぞれブレイクダウンした具体的な施策が記載されていますが、今後具体的にどのように実践していくのかが一番大事だと思います。例えば、方向性2の「教員のICT活用指導力の向上」で「中核となる人材の育成」は、非常に重要であり、優秀でスキルの高い職員を育成し、その教員がICTを広げていくイメージだと思いますが、そのためには環境を整備しなくてはならないし、その先生だけが負担が増えてもいけないなど様々な課題があると思います。そのため、具体的に実践するために課題を整理していく必要があると考えます。方向性としては、非常に良く考えられていると思いますので、それを具体的に実践するためにどのようにするのかを考えていく必要があると思いました。

中沢ICT教育推進課長 教員の研修は、スキルの部分にウエイトが重視されがちですが、優秀でスキルの高い教員を育成すると同時に組織としてボトムアップが必要であると考えています。現在、高等学校を中心に行っているプロジェクトチームでは、組織的に学校内でのICTの取組がどのように広がったのかについて注目しており、各学校それぞれ状況が異なります。管理職のリーダーシップで広がったケースや教員同士の横のつながりや学年単位で広がったケースもあります。また、いきなり学習活動でICTを活用するのではなく、校務のICT化から取り組み、慣れたところで子供たちのICT教育を始めるなど様々な事例がありました。項目を出して、興味のある学校に集まってもらう形をとっています。従来の研修では情報科の先生が出席しがちでしたが、多種多様な先生方に出席してもらい、お互いに情報交換しながら、所属する学校のICT化をどうすべきか、考える機会を設けています。こういった取組を行いながら、スキルの高い優秀な教員を育成し、組織的なボトムアップもしっかり取り組んでいきたいと考えています。

坂東委員 5ページの方向性1の「教科等」の「等」は 学校授業以外に何を想定しているのでしょうか。また、方向性3の「校務等」の「等」も何を想定されているのでしょうか。PTAの会議などになかなか集まらない保護者は、ICTを利用することによりメリットはあるのではないかと感じます。また、クラウドに関しては、学校間で情報のやり取りも行うことが今後あるかもしれませんが、現時点では学校単位でのクラウドという理解でいいのでしょうか。

中沢ICT教育推進課長 1点目ですが、学校教育活動全般を見ると教科学習だけではなく、クラス活動、学校行事、部活動があり、あらゆる場面でICTが活用されると思いますのでそういった活動も包含するものです。校務等は、家庭との連絡なども含めています。校務は、成績処理など先生の実務をイメージしがちですが、広く含めてICTを活用していこうとする趣旨です。2点目の質問のクラウドについては、大きく分けてネットワークは二つあります。一つは先生と生徒がクラウドを通じて行っているものです。例えば、課題の配信などを行っています。二つ目は、教員が校務で使用しているネットワークになります。教員が校務で使用している内容は、生徒の個人情報扱っているため、これは学校単位で行っています。生徒用については、グーグルワークスペースを使用しており、全ての生徒にアカウントを与え、先生と生徒のやり取りを行っていますのでオープンなクラウドで実施しています。しかし、セキュリティの問題も様々あるため、国の動向や県のセキュリティポリシーも意識し、一方で子供たちには快適にICTを使用してほしいという考えもありますので、その間を取りながら、うまく利用していきたいと考えています。

高田教育長 委員の皆様から様々な御意見を頂きありがとうございました。国によるGIGAスクール構想は、当初の方針であればもう少し時間を掛けて進めるスケジュールを組んでいましたが、コロナ感染症の影響により昨年度、小・中学生には一人1台端末と教室の通信回線の整備が一気に進みました。方向性を作り、計画に基づいて整備をし、進んでいくのが本来の姿だったかもしれませんが、コロナ感染症の影響により、教育活動が止まってしまったので、子供たちの学びを止めないために、ICTをできるところから始め、走りながら考

えて実施しました。ICTを使用していく中で、様々な活用方法が分かり、現在は効果的な活用方法の事例が集まってきている状況です。それを共有化することが必要であります。一方で当初では気付かなかった負の側面も出てきています。視力、姿勢の問題など健康面も含め、そういった課題に関しては、今後整理をしていきたいと考えています。小・中・高等学校・特別支援学校は同じ目標に向かって、同じ歩調であることが大事であると思いますので、国の計画が定まるまでの間ですが、しっかりと取組を進めてまいります。

(3) 次回委員会の開催予定について

12月23日（木）午前10時